

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（令和2年度）

法人名	社会福祉法人 壺中会	代表者	河田 孝美	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り、ご利用者様のご要望に応じ、ご利用時間の調整を致します。</li> <li>・看護師による通院介助にて病状を把握、職員に周知し病状にあった支援を致します。</li> <li>・全職員が利用者一人一人の特性を把握し個人の思いや希望を叶えるよう努力します。</li> <li>・地域の中で安心して快適な在宅生活できるよう地域の力を繋ぎ結び付け地域の人と共に支えます。</li> </ul>
事業所名	サテライト型小規模多機能 型居宅介護事業所 アサガオ	管理者	野崎 沙紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	6人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	外部評価を行う上で書類の規定もありますが、細かな説明を行い参加者全員が理解できるように努める。	事業所の評価はしっかり書けていた職員も居るが、特になしと記入している職員も居た。運営推進委員の方に説明出来なかった。	事業所の自己評価に取り組んでいるかの問いにはコロナの事もあり分からないの評価になってしまう。	評価にて出来ていない部分を意識しながら話し合いを密にしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き定期的にも運営推進委員の方々には見学して頂き、今後も清潔で居心地の良い空間作りを継続できるように努める。	今年はコロナ禍という事もあり施設見学など行えなかった。運営推進会議も感染拡大防止の為、中止になったりしていた。	今年はコロナの事もあり、活動一般的に自粛になっていた。	定期的な掃除・事業所内での整理・整頓を心掛け清潔を保つ。
C. 事業所と地域のかかわり	地域を意識した活動がまだ手探りの状況であるが、地域と関わりが持てるように職員全員が意識していくよう努める。	コロナ禍という事もあり、関わりをもつ機会がほとんど無かった。	食事会等、行っていたが今年は自粛。ただ、食事会に参加する方は決まっている。自分で動ける人ではないと参加出来ない。一元的に相談できる場所はあるのか？ホームページとかのネットは年寄りは見ない。事業所のパンフレットを渡している。もし相談があれば紹介できる。	継続して事業所のパンフレットを配布していき相談があった時には迅速に対応していく。地域の参加できるものがあれば積極的に参加していき話が出来る関係作りをしていく。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の方々が居住している地域を事業所が把握することで、利用者の地域での生活を支えているという意識を持てるように努める。	事業所が地域資源の把握が出来ていない。地域での生活を、地域の方と一緒に支えていくという意識が持てていない。	地域に向いて把握していくのは中々難しいのではないかとある施設は、町内会議に参加している。しかし、現在はコロナ禍であり人数制限をしている為中々参加してもらえない。民生委員の仕事が今は増えている状況。しかし今年は全然活動が出来ていない。	地域の方たちと話が交わせる関係作り（まずは、挨拶をする等）参加していけるような活動の把握をしていく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>事業所の話を一方向的に話すのではなく、地域の方々の意見や意向を出していただき地域の行事に協力できるように努める。</p>	<p>状況報告がメインだった。事業所の活動報告として文章のみではなく、写真付きの新聞として報告出来た。地域の行事に関してはコロナ禍でほとんど中止になった為、参加は出来ていない。</p>	<p>学区外の方もいる為、意見を聞くと言う事は難しいのではないか？</p>	<p>状況報告と合わせて事業所の取組みも充実させていき、地域の行事なども地域の一員として参加していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>事業所だけの防災訓練だけではなく、地域の防災訓練を行うようになった時には事業所も協力を行い参加できるように努める。</p>	<p>病院の防災訓練には参加した。今回、駐車場で実際に消火器を使用しての消火訓練や机上訓練も参加できている。</p>	<p>他の地域は、運営推進会議の際に防災訓練をしている。石井学区は防災意識が低いのか参加が少ない。</p>	<p>防災訓練に参加する。また、災害対策に必要なマニュアルは定期的に確認し意識を高く持つ。</p>